

AED(自動体外式除細動器)は多くの人が知っていますが、実際にはよくある勘違いがいくつかあります。知っておくと、いざという時に迷わず行動できます。

① AEDは「心臓が止まった人すべて」に使うわけではない

多くの人が
「心臓が止まったらAEDを使う」と思っています。

実際には、AEDは

- 心室細動
- 心室頻拍

という特定の状態のときだけ電気ショックが必要です。

でも安心してください。
AEDは自動で心電図を解析し、必要な場合だけショックします。

つまり
必要ない人には絶対にショックしません。

② 間違っても使っても大丈夫

「間違ったらどうしよう」と思う人が多いですが、

AEDは間違ってもショックを出すことはありません。

電極パッドを貼ると
機械が自動で判断します。

そのため
迷ったら使っても大丈夫です。

③ 音声で全部教えてくれる

AEDは

- 「パッドを貼ってください」
- 「離れてください」
- 「ショックが必要です」

など音声で全部指示してくれます。

医療知識がなくても
指示通りに動けば使える設計になっています。

④ 濡れていても使える

雨の日や汗で濡れていても

- 胸をタオルなどで軽く拭けば使用可能

です。

⑤ ペースメーカーがあっても使える

胸に小さな膨らみ(ペースメーカー)があっても

少しずらしてパッドを貼れば使用できます。


⑥ 女性や高齢者にもためらう必要はない

ときどき

- 女性だから
- 高齢だから

とためらう人がいますが、

AEDは年齢や性別に関係なく使うべき救命装置です。

 一番大事なポイント

倒れて反応がなく、呼吸がおかしい場合は

1. **119**番通報
2. 胸骨圧迫
3. **AED**を使う

この3つが命を救う基本です。